

共通教育について語り合う会「フクトーク」 -令和4年度 テーマ「インターンシップに求めるもの」-

大学教育センター 津田 将行 日暮 美紀

1. はじめに

現在、日本や世界を取り巻く課題として、国際化、SDGs、環境問題、情報通信技術の発展、少子高齢化、及び地域格差などがある。それらの課題は、時に大きく変化しながら、場合によっては複合的要素が交わりながら、これまでの常識が通用しない、不透明で、予測がつかない社会への変動に伴い進行している。学生には、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて、知識を活用して、付加価値を生み、イノベーションや新たな社会を創造していく人材となっていくことが求められており、国際的視点を持ち、個人や社会で多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行うことができる力を身につけることが求められている。

そこで大学時代に社会人としての教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培い、諸問題の課題を解決するスキルを身に付けるために、共通教育の役割は大きく、これには時代に合わせた充実した教育が望まれている。

本学では、学修の主体者である学生が参加して、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画する企画提案型の意見交換会「フクトーク」が開催されている。この「フクトーク」では、共通教育での学び方、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなどに関する語り合いを通じて、魅力的な授業内容・方法や新しい学びを創出しようとしており、そして共通教育の一層の充実が目指されている。ここ示す共通教育は、初年次教育科目、共通基礎科目、教養教育科目、及びキャリア教育科目が該当する。

2. 令和4年度におけるテーマ設定に関する経緯

近年、インターンシップを取り巻く環境は大きく変移している。インターンシップは、1997年9月に文部省、労働省、通商産業省の三省同意により「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として定義され、「企業等の場における学生に対する教育活動」としてスタートした。しかし、インターンシップは近年「模擬的な作業を含めて、業務を体験する場面が全くないもの」をインターンシップと表して実施しているものや、多くの学生が「就職活動に直接的なメリットをもたらすと期待される短期インターンシップ」への参加に偏重する傾向を示している。すなわち、教育的な活動よりも就職活動の一環とした活動が多くなり、またそのような活動を重視する学生も多くなっている。

そこで、2022年6月に政府のインターンシップ推進に当たっての基本的な考え方が三省同意(文部科学省、厚生労働省、経済産業省)により一部改正された。この改正では、インターンシップの定義を「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか(自らがその仕事で通用するかどうか)を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験(企業の実務を体験すること)を行う活動」とした。具体的な改正点として、就業体験を必ず含む「汎用的能力」(5日間以上)、「専門活用型」(2週間以上)の実習を行うものを厳密に「インターンシップ」と定義した。また協力企業がこの「インターンシップ」で得た学生情報を、就職活動に活用できる等、インターンシップを取り巻く環境は大きく変貌している。

以上のことから、今回の「フクトーク」では、キャリア教育科目の「BINGO OPEN インターンシ

ップ」に焦点を当てることにした。「インターンシップに求めるもの」と題し、インターンシップに対する学生の思いやそこで学びたい事柄、さらには学修内容の充実につながるような事柄についてグループ内で意見交換を行い、大学へ提案することとした。

3. BINGO OPEN インターンシップの概要

表-3.1は「BINGO OPEN インターンシップ」の実習スケジュール内容を示している。

4月にインターンシップの説明会を実施する。5月にはインターンシップへの協力企業の説明会を実施し、学生は自分の関心にあった実習先の選定を行なえる。

6月から7月の期間に、学生は応募者個人票を作成し、本学のインターンシップの担当部署である自分未来創造室へ提出する。その後、企業による選考が行われ、学生のインターンシップ先の企業が決定する。

インターンシップは8月から9月の夏季休業期間中に実施される。インターンシップ前には事前研修が、インターンシップ後には事後研修が実施される。

そして、例年12月頃にインターンシップの合同成果報告会が開催される。

表-3.1 「BINGO OPEN インターンシップ」の実習内容

実施時期	実施内容
4月	オリエンテーション
5月	合同企業説明会
6月～7月	応募、選考
8月	事前研修
8月～9月	インターンシップ
9月	事後研修
12月	合同成果報告会

4. フクトークの実施方法

(1)参加希望学生の募集、及び参加登録について

2022(令和4)年11月14日から11月30日の期間に学生を募った。告知は大きく3種の方法を採った。1つ目は学内にポスターを掲示した。2つ目は本学の学生ポータルシステムであるZelkovaを利用した。3つ目は各学科の教員や共通教育科目担当の教員から授業などを通じて連絡した。

また参加登録は、MicrosoftのFormsを使用した。参加希望学生には、氏名等の必要事項とともに、インターンシップへの参加の有無について入力してもらった。

(2)事前説明会の開催

2021(令和3)年度からは「フクトーク」の事前説明会を実施している。目的は、①スモール・グループ・ディスカッション(以後、SGDとする)での対話の時間を十分にとるため、②学生に議論のテーマについて説明を行い、当日までの期間でテーマについて考え深め整理するとともに、そのヒントとなる資料を提供するため、③当日のSGDの方法、進め方を理解するため、の3点である。今回の事前説明会は、2022(令和4)年12月7日(水)の12:30～12:50に、7号館2階のプロジェクトラウンジで実施した。

(3)フクトーク当日、及びグループ分け

「フクトーク」は、2022(令和4)年12月14日(水)の16:30～18:00に、大学会館3階CLAFT教室で実施した。当日の参加学生数は23名であった。このうち、インターンシップに参加したことがある学生は9名、参加したことがない学生は14名であった。そこで、各グループの参加人数は4名から5名として、インターンシップに参加したことがある者同士のグループ、インターンシップに参加したことがない者同士のグループに分けて編成することとし、前者2グループ、後者3グループの合計5

グループに分かれた。

(4)進め方

当日は図-4.1 に示すフレームワークへ書き込む方式でSDGを行い、その後、発表を行った。フレームワークはSTEP1 からSTEP4 を設定した。最終的なSTEP4 ではインターンシップ後の状態として、2022年6月の三省合意を踏まえ「就職体験後、気持ちは達成感とともに、ワクワクしている。自分が仕事を進めるに必要な力を知り、その力を伸ばしていこうとする姿勢が備わっている」とした。このSTEP4 を達成するために、STEP1 は学生一人、ひとりのインターンシップに対する感情について、STEP2 では、STEP1 のプラスの感情へと達するために、また、マイナスの感情をプラスの感情へ変えるために、それぞれ必要なことについて対話を行った。STEP3 では、具体的に授業科目「BINGO OPEN インターンシップ」において、学生が大学にいつ、どんなサポートを求めるかについて提案を行うこととした。

具体的には、まずSTEP1 の問いとして、プルチックの感情の輪を用いて「インターンシップに対する学生一人、一人の感情について」へ回答する。すなわち①喜び、②信頼、③驚き、④期待、⑤悲しみ、⑥嫌悪、⑦恐れ、⑧怒りの8つの感情のうち、どれに該当するかを回答する。次にSTEP2 の問いとして、STEP1 をもとに、①～④の感情を選択した人を対象として「インターンシップを通じてどのように成長したいか、また何を得たいか」を具体的に回答する。また、⑤～⑧の感情を選択した人を対象として、「感情⑤～⑧が感情①～④に変わるのに必要なことは？」を具体的に回答することとした。最後にSTEP3 では、「大学にいつ、どんなサポートが必要か」「どんな授業を行えば、STEP4 の状態になるか」について提案する。

インターンシップ参加で、大学にはいつ、どんなサポートを求めますか？

STEP04

インターンシップ後の状態	就業体験後、気持ちは達成感とともに、ワクワクしている 自分が、仕事を進めるのに必要な力を知り、その力を伸ばしていこうとする姿勢が備わっている
---------------------	---

↑

STEP03

インターンシップでSTEP02(左側)を達成する。STEP02(右側)を感情①～④の体験するためには、大学にいつ、どんなサポートを求めますか？ (具体的に、理由を含めて)

時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
BINGO OPEN 4科目	オリエンテーション			合同企業説明会			エントリー			社会人基礎力診断テスト①			インターンシップ参加			社会人基礎力診断テスト②			合同就業報告会																	
いつEARNをサポート?				履歴書作成						誓約書締結			事前研修(参加動機)			事後研修(振り返り、キャリアカウンセリング)																				

↑

STEP02

インターンシップを通じてどのように成長をしたいですか？ また何をしたいですか？ (具体的に)	感情⑤～⑧が、感情①～④に変わるのに、必要なことは？ 例えば、喜びが得られる体験とは？ 安心できるために必要なことは？ など
--	---

↑

STEP01

あなたの今のインターンシップに対する感情は？

<p>①喜び : 希望が達成された時や、優しさを感じた時の爽やかな気持ち</p> <p>②信頼 : 心配することなく、信じて安心できる気持ち</p> <p>③驚き : 予期しない事象を体験した時の瞬間的な感情</p> <p>④期待(予測) : 事柄が自分の思いどおりになることを望む気持ち</p>	<p>⑤悲しみ : 物事がうまくいかなかった時や、大切なものを失った時に感じる残念な気持ち</p> <p>⑥嫌悪 : 憎み嫌い、不快に感じる気持ち</p> <p>⑦恐れ : 害悪や危険な事柄に対して逃避したいと感じる気持ち</p> <p>⑧怒り : 侮辱されたり傷つけられたりした時に起こる不愉快な気持ち</p>
--	--

【参考】 BINGO OPEN インターンシップのインターンシップで体験できること

<p>業務体験型 (5日間)</p> <p>社員の方々が、日々、実際にやっている業務を体験することを通じて、仕事とは何かを実践的に学ぶプログラムが中心のインターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場での体験(開発・設計、製造、製造管理、品質保証・管理等) 店舗での接客・売場整理 企業同行と準備(見学者や資料の作成、打合せ参加) 業務業務(経理・総務・労務・発注・納品管理など) 	<p>課題達成型 (5日間)</p> <p>企業が抱える実践的な課題に対して、学生ならではの視点から解決を試みるインターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発・業務改善・テーマに対するリサーチ・分析 店舗ディスプレイの改善提案 お客様満足度の向上のためのアンケート調査と改善提案
---	---

図-4.1 SGD で使用したフレームワーク

5. 各グループからの提案

前述したように、今回のフクトークでのグループ編成は、インターンシップに参加していないグループが3グループ、インターンシップに参加したグループが2グループとなった。表-5.1には各グループからの提案結果が表-5.1に示されている。

まず、インターンシップに参加していない3つのグループの要望をまとめると6つの意見があった。①インターンシップに関する受入企業についての詳細、②履歴書の書き方、自己PRの書き方の講習、③ビジネスマナー、メイクや服装の講義、企業についての事前学習、④体験した先輩とのインターンシップ前の意見交換、学部や学科に限定されることのないディスカッションの講義、⑤インターンシップ以外で社会人との交流により会社の雰囲気や業務を遂行するのに必要なスキルを知ること、⑥1年次からインターンシップについて、その重要性、意義、先輩との対話、成功・失敗談について知ることができること等であった。

次に、インターンシップに参加した2つのグループの要望をまとめると5つの意見があった。①合同企業説明会が開催される前の4月から5月の間にインターンシップに参加した先輩との交流により自分の興味のある業界について知識を得ること、②インターンシップ前のグループディスカッション講習、③インターンシップ参加直前に、言葉遣い、挨拶、服装の確認、不安事項の解消となるような最終面談、④インターンシップ後における、他学年・他学部や他大学とのグループディスカッション講

表-5.1 各グループからの提案

チームNo.	1	2	3
インターンシップ 参加有無	不参加	不参加	不参加
STEP1 感情	期待：業界・会社に対する理解を深める 期待：社会人になる前に社会経験 期待：自分が社会で通用するのを知りたい 期待：社会への心構え、辛さ、楽しさ、やりがい 期待：バイトでの経験や特技を活かす機会	期待：積極性があり、責任感のある行動 期待：社会経験を得て、人間的成長 期待：経験値を得る	期待：企業や職場の雰囲気 期待：仕事に対する働き方や考え方 期待：仕事をする上での楽しさ 期待：必要な資格やスキル
STEP2 要因	信頼：家の仕事(事業)だったらよい 恐れ：インターンシップの企業に迷惑をかけないか 恐れ：マナーを知らない 恐れ：何をどうしたら良いかわからない 恐れ：経験のしたことがないから		
STEP03 大学へのサポート事項	【4月】インターンシップ情報の積極的発信 履歴書の書き方 【6-7月】ビジネスマナー講座、メイク、服装 企業についての事前学習 1年次からインターンシップについて学ぶ (重要性、意義、先輩の話し、成功・失敗談)	【インターンシップ前】 体験した先輩との意見交換 マナー講義 自己PRの書き方 ディスカッションの場を増やす (学部・学科を超えた交流会)	【4月】 インターンシップ受入企業について知りたい 【インターンシップ以外】 社会人と直接対話 (会社の雰囲気や必要なスキルを知る)

チームNo.	4	5
インターンシップ 参加有無	参加	参加
STEP1 感情	期待：どれだけ自分が優れているか 期待：仕事内容が知れる 期待：将来就きたい職種、楽しみ 期待：自分の長所や短所を見つけたい 緊張：楽しみもあるが、不安も大きい 不安：何をするのかわからない	期待：自分がどこまでできるか知れる 期待：年上の人と話すことに慣れた 期待：就活との連結を意識した
STEP2 要因	不安：周りの人がどれだけ知識があるのか 不安：どんな感じか、うまくやれているか 不安：会社の雰囲気、環境がわからない	
STEP03 大学へのサポート事項	【企業説明会前】 先輩との交流(自分の興味ある業界、ない業界) 【インターンシップ前】 グループディスカッション	【インターンシップ前】 面談(言葉遣い・挨拶・服装の確認、不安事項相談) 【10月】グループディスカッションの練習 縦(先輩、後輩)、横(他大学)とのつながり 【前期・後期】インターンシップを分ける 継続的に知ることができる 公欠対応

習、⑤夏季休暇だけの期間限定の集中でなく、前期と後期を通じた実施による継続的な学び等であった。

インターンシップの参加の有無に関わらず、参加した先輩から直接、体験談を聞きたいという要望があった。また学部・学科、学年に関係なくディスカッションをする機会の提供を要望していた。

これは感情や感情の要因のところに出てきているように、インターンシップへの参加の有無に関わらず、インターンシップに関しては、企業や職場の雰囲気や仕事内容、あるいは仕事に対する働き方や考え方を知ることができる等、仕事、業界、会社、及び社会に対する理解を深められることが期待されていることがわかる。また、自分が社会で通用するのか、自分の長所と短所、社会経験を得て人間的に成長できる等、自己理解を深められることへの期待があることがわかる。しかしそれと同時に、マナーを知らない、会社の雰囲気や環境がわからない、インターンシップの企業に迷惑をかけないか等の不安要素もあることがわかる。その不安要素を少しでもなくす方法として、インターンシップに参加した先輩から直接に体験談を聞きたいという要望があったものと考えられる。また、学部・学科、学年に関係なくディスカッションをする機会を要望していることについては、新型コロナウイルスの影響によりオンライン授業や学生間の交流が以前に比べて少なくなっただけに、他の学生の考え方や現状を把握したり、また将来に対して準備を進めたりしていきたいという考えが、その根底にあるものと考えられる。

5. 参加学生の感想（アンケート結果）

「フクトーク」終了後、参加者にアンケートを実施した。そのアンケートの結果について以下に示す。

まず、「フクトーク」に参加するに当たってのきっかけとして、図-6.1に「どのようにして知ったか？」に関して、「教員からの参加要請があったので知った」の回答が58%と一番多く、また図-6.2「参加の動機」に関して、「掲示などで興味を持ち、大学の授業に自分の意見を是非反映させたいと思ったから」の回答が50%と一番多いことから、教員からの参加要請とともに、興味、関心を持てるテーマだったので参加を決めた学生が多かったと見られる。

次に、「フクトーク」の実施に対する質問として、図-6.3に「話し合いは有意義だったか？」に対して、「非常に有意義であった」が48%、「比較的有意義であった」が43%と約9割の参加学生が「有意義であった」と感じていることがわかる。また図-6.4「自分の意見が十分に出せましたか？」に対して、「十分に出せた」が56%、「ほぼ出せた」が35%と、これも約9割の参加学生が「意見を出せた」

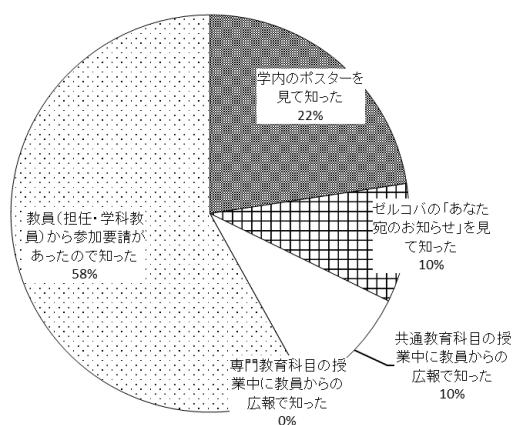


図-6.1 「フクトーク」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)

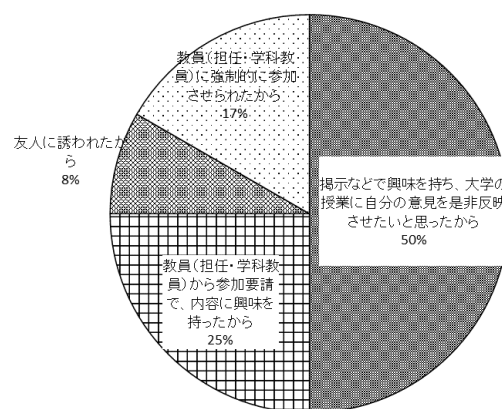


図-6.2 「フクトーク」への参加の動機を教えてください。(複数回答可)

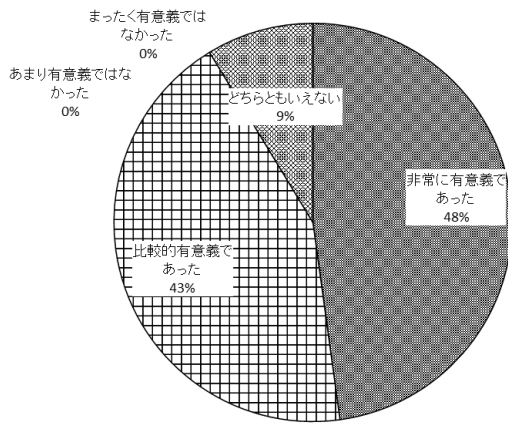


図-6.3 今回の「フクトーク」の話合いは有意義でしたか。

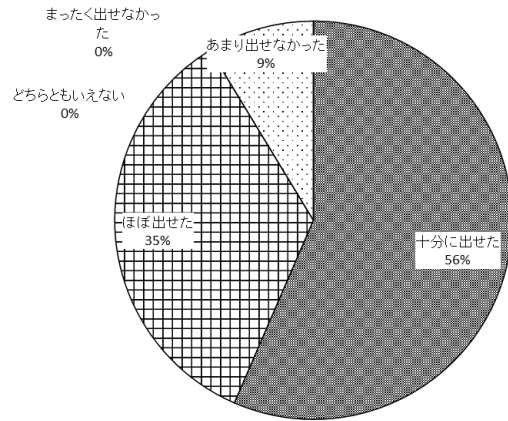


図-6.4 グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。

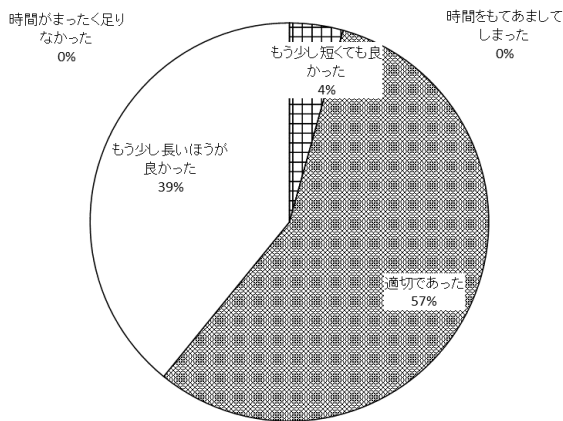


図-6.5 ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。

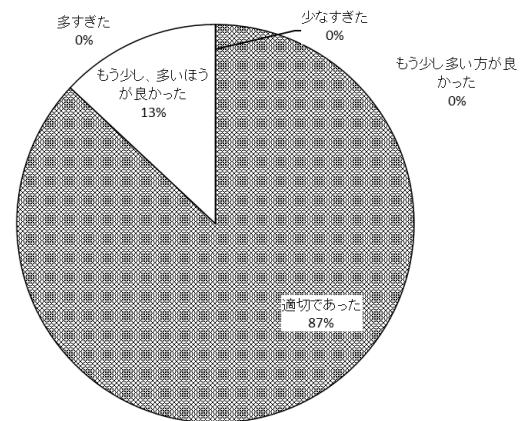


図-6.6 グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

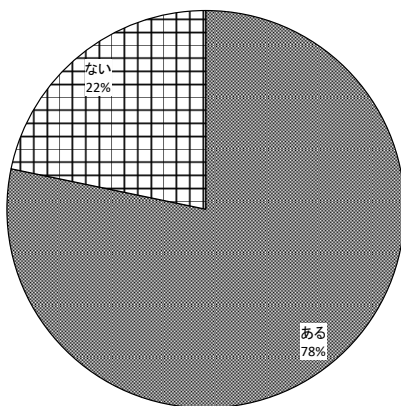


図-6.7 提案された項目の中で是非、実現してほしいものはありますか。

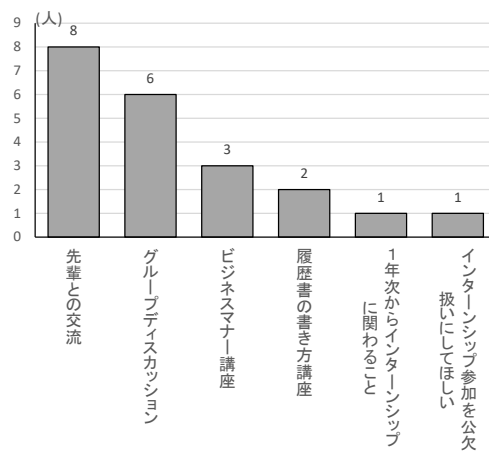


図-6.8 提案した中で実現してほしい項目はなにですか。

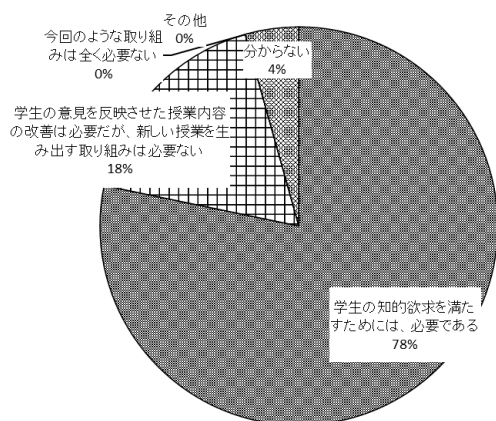


図-6.9 学生の意見を取り入れた新規授業の創出の取り組みは、今後も必要と思いますか。

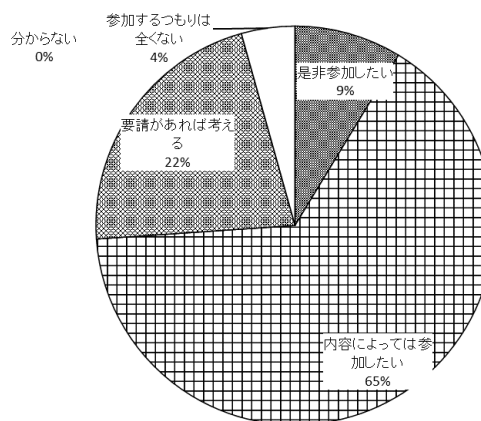


図-6.10 次回の「フクトーク」に参加したいと思いませんか。

表-6.1 「フクトーク」に対する自由記述の結果

良い意見交換ができた

楽しかったです

初めての参加でしたがとても有意義なものになったと思います。

今回は学部と学年が違う人がいたのだが、学年それぞれの意見の違いとか不安の違いがあったので、そこを知れたことはとても良かったと思う。

学部外の人と交流することができ、参加して良かったです。

他学部、多学年の方々との交流ができてよかったです。

今回参加してみて、色々な人の考えが聞けたので良かったです。

一人一人が、自分の考えてきた意見を話し合うことができてよい機会だった。

グループディスカッションの場が初めてだったので、やりきれないところが多かったです。場数を踏みたいです。

自分がインターンに興味を持ついきっかけになりました。

インターンシップについて何も知らなかったが、今回の機会ですることができた。

と知っていることがわかる。また図-6.5「ディスカッションの時間」に対しては、57%が「適切であった」と回答、図-6.6「1グループ当たりの人数」に対しては、87%が「適切であった」と回答していた。よって、グループ構成人数は4人から5人の場合、グループ内で個々の学生はその場で意見が出せたと感じてはいるものの、より深い対話をするためには、もう少し時間が長い方が良かったと感じているということがわかる。

次に、今後の授業での実現性に対する問いとして、図-6.7「提案されたプロダクトの実現の是非」では、78%が「実現してほしい」と回答していた。また図-6.8「実現してほしい項目」として、「先輩との交流」が8人と一番多く、次に「グループディスカッション」「ビジネスマナー講座」の項目の実施を希望していた。

次に、このような取り組みに対する質問として、図-6.9「学生の意見を取り入れた新規授業の創出の取り組みは、今後も必要と思いますか。」に対して、78%が「学生の知的欲求を満たすためには、必要である」と回答していた。また図-6.10「次回の「フクトーク」に参加したいか」に対して、「内容によっては参加したい」が65%と一番多く回答していた。

さらに、表-6.1は「フクトーク」に参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど」を自由に記載してもらった結果である。「学部外の人と交流することができ、参加して良かった。」「色々な人の考えが聞けたので良かった。」等グループディスカッションに対する高評価の回答が多く見受けられた。普段の授業では、このようなアクティブラーニング型はあまりなく、彼らは、他者との交流、意見交換、及び課題解決型の授業を実施することで、他者との考え方の違い、自己の発見、及び意見出しに対する共感が得られたのではないかと推察する。

7. おわりに

令和4年度の「フクトーク」では、「インターンシップに求めるもの」をテーマに、授業科目にもなっているインターンシップに対して学生の思いや学びたい事柄、学修内容の充実につながるような事柄について、グループ内で意見が交わされ、大学へ提案が行われた。

インターンシップには、インターンシップに参加した先輩との交流により、インターンシップに対する不安事項である「マナーを知らない」「会社の雰囲気や環境がわからない」「インターンシップの企業に迷惑をかけないか」というような継続の不安を少しでもなくすことができるような取り組みが求められていると言えよう。

謝辞：本行事の実施にあたり、参加してくれた学生、及び学生参加の告知等でご協力いただきました関係の多数の教職員の方々にここに記してお礼申し上げます。

以下に、当日の実施状況を示す。



スモール・グループ・ディスカッション 1



スモール・グループ・ディスカッション 2



発表 1



発表 2



発表 3



講評